

令和5年10月31日

医療・福祉関係者各位

酒田地区歯科医師会
在宅歯科支援室
代表 佐々木正晃

酒田地区歯科医師会在宅歯科支援室研修会のお知らせ

紅葉の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より本会事業にご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、この度令和5年度酒田地区歯科医師会在宅歯科支援室研修会としまして、今後ますます増加すると予想される『医療的ケア児』に対応するため、研修会を開催することになりました。ご多忙中のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席下さいますようお願い申し上げます。

参加を希望される方は、12月4日（月）まで別紙様式により酒田地区歯科医師会
(FAX0234-22-0898)へお申し込み下さい。

記

1. 日時 令和5年12月17日（日）9時30分～12時
2. 場所 酒田市民健康センター 3階 大会議室
3. 内容 演題「**医療的ケア児に多職種連携で歯科はどうかかわるか?**」
講師 日本歯科大学
口腔リハビリテーション多摩クリニック
口腔リハビリテーション科

教授・科長 **田村 文誉** 先生
4. 対象 歯科医師会会員、スタッフ、医療・福祉関係者他

以上

「酒田地区歯科医師会在宅歯科支援室研修会」

参加申し込み

病院、施設等の名称			
氏名		職種	

※事前に講師の先生に質問がある方は、ご記入下さい。

--

12月4日（月）までに酒田地区歯科医師会までFAXで返送の程
お願い致します。 （FAX：0234-22-0898）

医療的ケア児に多職種連携で歯科はどうかかわるか？

日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック

在宅で療養している児の多くは医療的ケア児です。医療的ケア児に明確な定義はないとされますが、2016年に児童福祉法が改正された際、「人工呼吸器を装着している障害児その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児」、と表現されました。また在宅療養児には、医療的ケア児のほか、慢性疾患、小児がんなどの疾病がある子どもたちも含まれます。19歳以下の医療的ケア児は、現在では2万人を超えていると推計されています（厚労科研事業、田村正徳班）。

外出困難な小児患者にとって、在宅歯科医療の充実喫緊の課題です。予防歯科的な観点からう蝕、歯周病にさせないこと、また生命予後にも関与する経口摂取の可能性のために、地域での在宅歯科医療の充実が求められます。小児在宅歯科医療は「在宅で療養する小児を支える歯科医療」であり、その観点からすれば、地域のかかりつけ歯科医としての役割、後方支援としての役割など、いくつもの役割が存在します。

小児在宅歯科医療の充実には、地域でのシステム作りが重要です。各地域の実情に応じたシステムを構築し、社会に貢献できる歯科医療を普及するために、多くの歯科医療従事者の力と、多職種、地域との連携が重要と考えます。歯科は口腔の専門家として、そして患児にかかわる訪問チームの一員として、他職種と同列になった役割を果たすべきでしょう。

小児の特徴として、他職種連携の中に保育・教育関係者との連携があります。そこでは、歯科診療の具体的な説明よりも、園や学校での歯磨き方法や、食事介助方法、適切な食形態等の指示を仰がれることが多くあります。また、園医や学校医、学校歯科医師とも、保護者や担任と共に連携を行なっていく必要があるでしょう。子どもは成長していきます。その過程の中で様々な連携のかたちに変化していくことへの準備・対応が重要となります。

講師紹介

田村 文誉 (タムラ フミヨ) 先生

日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック
口腔リハビリテーション科 教授・科長

略 歴

平成 元年	昭和大学歯学部卒業
平成 元年	昭和大学歯学部 第三補綴学教室入局
平成 3年	同 口腔衛生学教室入局
平成13年4月～平成14年3月	
	米国アラバマ大学歯学部 補綴学・生体材料学教室留学 を経て、
平成16年	日本歯科大学 講師
平成19年	同 准教授
平成24年	同 口腔リハビリテーション科 科長
	日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック勤務
平成25年	同 教授 現在に至る

所属学会（役職・認定医）等

日本障害者歯科学会 理事，専門医・指導医・認定医
日本老年歯科医学会 指導医・認定医・専門医・摂食機能療法専門歯科医師
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 認定士

等

主な著書：『歯科訪問診療ハンドブック 小児から高齢者まで全世代に対応するための心得（編著）』
『子どもの食べる機能の障害とハビリテーション（編著）』『ダウン症の子どもの摂食嚥下ハビリテーション（編著）』『子どもとその口腔の診かた（編著）』『子どもの歯科訪問診療実践ガイド（編著）』
『歯科医師のための構音障害ガイドブック（編著）』『小児歯科学第5版（共著）』『上手に食べるために1（共著），2（単著），3（共著）』『Groher & Crary の嚥下障害の臨床マネジメント（共訳）』
『小児の摂食嚥下リハビリテーション第2版（共著）』『重症児のトータルケア改訂第2版（共著）』
ほか